

厚生労働大臣

柳澤 伯夫 殿

卒前・卒後の一貫性ある医師養成政策に関する提言と要望

平成 19 年 6 月 29 日

全国医学部長病院長会議

会 長 大橋 俊夫

全国医学部長病院長会議

地域医療に関する専門委員会

委員長 小川 彰

厚生労働副大臣

武見 敬三 殿

卒前・卒後の一貫性ある医師養成政策に関する提言と要望

平成 19 年 6 月 29 日

全国医学部長病院長会議

会 長 大橋 俊夫

全国医学部長病院長会議

地域医療に関する専門委員会

委員長 小川 彰

厚生労働副大臣

石田 祝稔 殿

卒前・卒後の一貫性ある医師養成政策に関する提言と要望

平成 19 年 6 月 29 日

全国医学部長病院長会議

会 長 大橋 俊夫

全国医学部長病院長会議

地域医療に関する専門委員会

委員長 小川 彰

厚生労働省医政局

局長 松谷 有希雄 殿

卒前・卒後の一貫性ある医師養成政策に関する提言と要望

平成 19 年 6 月 29 日

全国医学部長病院長会議

会 長 大橋 俊夫

全国医学部長病院長会議

地域医療に関する専門委員会

委員長 小川 彰

文部科学大臣

伊吹 文明 殿

卒前・卒後の一貫性ある医師養成政策に関する提言と要望

平成 19 年 8 月 3 日

全国医学部長病院長会議

会 長 大橋 俊夫

全国医学部長病院長会議

地域医療に関する専門委員会

委員長 小川 彰

卒前・卒後の一貫性ある医師養成政策に関する提言と要望

全国医学部長病院長会議は、一昨年、新臨床研修制度の問題点を指摘し、①医学生の実習の充実のための医行為実施の教育環境整備。②卒前臨床研修、後期専門研修システムの構築を含む、一貫性のある新臨床研修制度の見直しと研修医の適正配置、教育・研修環境の充実。③卒前卒後を通じた医学生涯教育の一貫性を担保する国と大学との協力システムの構築の3点を骨子とした「提言と要望」を取りまとめた。昨年は「臨床研修制度の迅速な見直し。」を骨子とした「緊急声明」を取りまとめ、それぞれ関係省庁に要望してきた。今年度総会では、一貫性のある卒前、卒後さらに生涯医学学習と国民の福祉の観点から新臨床研修制度の見直しを含む医学教育改革の方向性を、以下の「改革案」としてとりまとめた。

「医学生涯教育の観点に立った医学教育改革案」

1. 臨床実習開始前の医学知識、技能の評価、認定制度（共用試験）の実効性のある資格制度としての確立
2. 学生の医行為実施の法的整備による診療参加型臨床実習の充実
3. 全国共通の卒業到達目標の設定と評価の義務付けによる国家試験の見直し（技能・態度を問う試験の導入）
4. 新臨床研修制度の理念の見直し（基本的臨床・診療能力の涵養と専門的研修の導入期と位置付け再編）
5. 研修指定病院基準・マッチング制度の見直しと地域別定数制及び厳格な評価の導入
6. 医学・医療研究の充実・発展と、大学院制度の生涯教育への組み込み

以上の6項目を骨子に、一貫性ある医育・医師養成政策を早急に具体化して行く様、関係省庁に強く要望するものである。

医師の地域偏在、診療科間偏在、基礎医学志望者の減少など様々な社会的問題が臨床研修制度の導入を契機として顕在化してきた。全国医学部長病院長会議は、この問題を国民の福祉の後退につながる緊急かつ重大な問題と捉えた。平成17年度総会において「提言と要望」を取りまとめ、平成18年度総会においては「臨床研修制度の迅速な見直し」を求める緊急声明を行った。

医学部・医科大学の使命は①医師に求められる深い倫理と人間性を涵養し、②医学知識と医療技術を獲得、習得させ、③日々進歩する医学・医療の中で得られた知識・技能を生涯にわたり維持、向上させて行くためのたゆまぬ自己研鑽と自己学習する能力を獲得させ、さらに、④医学・医療を日々進歩させてゆく能力を有する人材を育成することにある。

この視点から卒前・卒後の医学教育・医師養成の現状を見直し、卒後臨床研修の今後のあり方を卒前卒後教育改革案として提言する。

I. 現状の医学教育の問題点と解決策

新臨床研修制度による研修は2年間という極めて限られた期間にすぎない。優れた臨床医の養成には、卒前教育・臨床実習・卒後研修、更にその後の専門研修を含む長期にわたる生涯学習が必要である。臨床研修は医学生涯学習の観点から、卒前卒後の一貫性をもった教育システムの中に位置付けられる必要がある。

医学知識の学習を終了し、卒前の臨床実習を開始する前に共用試験を必修化し、学生の医行為実施の法的整備のもと診療参加型臨床実習を充実推進させ、2年間の臨床実習の充実を図る。卒前の臨床実習は研修病院等と連携して行う。このことにより医学部卒業時点で十分な基本的臨床・診療能力が獲得できる。

卒前臨床実習と卒後の臨床研修との理念・到達目標を整理する。卒前の臨床実習の到達目標は基本的医学知識と臨床・診療能力の獲得にあり、卒後の新(初期)臨床研修はこれら臨床・診療能力をさらに発展させ専門的研修の導入期と位置付ける。その後の研修はより高度な専門研修として各専門領域の優れた臨床能力の獲得と、大学院教育と連携して医学・医療を日々進歩、発展させてゆく能力を有する人材の育成を目標とする。

II. 全国医学部長病院長会議の今後の方向

生涯教育は医師という専門職業人としての継続的成長(Continuing Professional Development)に必要不可欠であり、全国医学部長病院長会議は大学のみならず地域病院、行政と一体となって、国民の福祉に直結する良医育成のための「医師養成グランドデザイン」を提言し実行してゆく所存である。